

令和5年12月4日
(2023年)

保護者の皆様

吹田市立山田第二小学校
校長 真部 美保

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数と理科に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・全ての項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。
- ・基礎的・基本的な国語に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

◎「話すこと・聞くこと」領域

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える問題において、全国値を上回っている。しかし、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題においては、全国値をやや上回る程度であり、無解答も見られた。

◎「書くこと」領域

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題において、全国値を上回っている。しかし、他の項目に比べて正答率が34%と低くなっており、課題が見られた。

◎「読むこと」領域

目的を意識して、中心となる語や分を見つけて要約する問題において、全国値を上回っている。目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題において全国値を上回っている。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題でも全国値を上回っている。

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域

学年別に漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題において全国値を上回っている。また、漢字を文の中で正しく使う問題も全国値を上回った。日常でよく使われる敬語を使った問題も全国値を上回っている。

●国語における成果

14問中14問で全国値を上回った。また、無回答率も全国値と比べると極めて低い。読むことの領域では全ての問題で全国値を上回っているため、今後も継続していきたい。また、漢字を書く力においては全国値を大きく上回っており、しっかり定着していることがわかる結果であった。だが、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表すことに課題が残るので、今後、図表やグラフを用いて、考えを書く活動を取り入れていく。

●算数《概要》

- ・全ての項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。
- ・基礎的・基本的な算数に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

◎「数と計算」領域

基本的な四則計算はできている。()を用いた式や、加法と乗法の混同した式を場面と関連付けて読み取る問題では、全国値を20%近く上回り、式と場面を関連付けて考える力が比較的高いことがうかがえる。しかし(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位にあたる式を選ぶ問題では、正答率が低い傾向が見られた。

◎「図形」領域

いずれの問題においても全国値を上回っている。しかし、高さが等しい三角形の底辺と面積の関係を基に、面積の大小を言葉や数を用いて記述する問題は正答率が低かった。底辺と面積の関係は理解しているが、言語化することに苦手な傾向が見られる。

◎「測定」領域

今年度は、「測定」領域の問題は実施されなかった。

◎「変化と関係」領域

割合と基準量から比較量を求める問題では、90%前後の児童が正答しており、ほとんどの児童が割合についてよく理解している。しかし、基準値と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ問題では正答率が58%となっている。このことから、百分率で表された割合の理解については課題が見られた。

◎「データの活用」領域

グラフや表からデータを読み取る問題では、70%~80%の児童が正答しており、いずれの問題においても全国値を上回っている。

●算数における成果

16問中16問で全国値を上回っている。算数への関心・意欲・態度は比較的高く、出題された学習内容についても基礎的なことについてはおおむね理解し、答えることができている。だが、言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られたので、記述のある問題を解く機会を増やしたい。また、データを活用する問題では無回答率が上がっているので今後の指導について検討する必要がある。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【規則正しい生活習慣】

「朝食を毎日食べていますか」93%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」87%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」94%であり、全国値とほぼ同じ、または上回っている結果であった。規則正しい生活習慣が身につけていることがわかる。

【自己肯定感】

「自分には、よいところがあると思いますか」という項目では、90%の児童が肯定しており、全国値と比べても上回っている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目や「人が困っているときは、進んで助けますか」の項目では95%近くの児童が肯定しており、いじめは許されないことや、友だちを大切にしようと思う気持ちが持っていると考えられる。

その反面、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目では77%の児童が肯定的に捉えているが、他の項目より低い結果となっている。児童が安心して相談できる環境を作る必要があると考えられる。

【家庭生活の様子・家庭学習】

「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という項目に対して自信をもって肯定的に答えられている児童の割合は、全国値に比べると低い。児童自らが課題を設定し、好きな教科はもちろん、苦手な教科にも進んで取り組む自学自習の習慣が身につくような機会を設定していく。

【学校生活・授業】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目では、91%以上の児童が肯定している。児童が自分の考えを表現できる場を設定するだけでなく、有意義な学校生活を送ることができるように継続的に授業改善を行いたい。

「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という項目では、全国値を下回った。今後は積極的に授業で活用していく必要がある。

「読書は好きですか」という項目では、85%以上の児童が肯定しており、全国値を大きく上回っている。また、「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という項目でも、全国値を上回っており、読書が習慣化している児童は多いといえる。

国語科の、「国語の勉強は大切だと思いますか」という項目では、97%の児童が大切だと考えており、意欲的に学習に取り組む様子が見えてくる。「国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題をどのように解答しましたか」という項目では、「全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した」の解答が85%で全国値を上回った結果となった。ただし、「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友だちと伝え合い、自分の文章のよいところを見つけていますか」の項目は、全国値を上回っているものの、他の項目と比べて肯定的な回答が低かったため、今後は授業の中で、話し方や書き方の見本を提示したり、文章の構成や書き方を工夫した点について交流したり助言しあったりする活動などを通して、今後も学習の向上に努めていきたい。

算数科の、「算数の勉強は大切だと思いますか」という項目では、93%の児童が大切だと考えており、意欲的に学習に取り組む様子が見えてくる。また「算数の授業の内容はよく分かりますか」という項目に対して、85%以上の児童が肯定している。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という項目には82%以上が肯定的な回答で意欲的に取り組んでいる様子が見えてくる。引き続き、算数科において実生活の中で活用できていると感じられるような授業を設けられるように努めていきたい。